



ゆみなみまちしげんほぜんかい

かがし

弓波町資源保全会

(石川県加賀市)

- 本地域は加賀市中央部に位置し、平地や河川で形成されている。用水路などの施設が整備されており、地形を有効活用した稲作を営んでいる。
- 本地域における農地保全管理体制の維持及び充実を図るため、平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組んでいる。
- 本取組により町内会等の非農家の協力が得られ、農地保全管理活動が「生産組合のみの活動」から「町全体での活動」へと発展している。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積45ha (田45ha)
- ・資源量 水路14.6km 農道7.5km
- ・主な構成員 生産組合、町内会、婦人会等
- ・交付金 約1.8百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化、後継者不足、農村の人口減少により、農業者だけによる施設管理が困難になってきた。さらに農地の耕作放棄地化が懸念された。
- また、集落内における農業者と非農業者のつながりが希薄化していた。
- 市内の農業施設は造成後45年以上が経過し、老朽化に伴う水路の漏水など維持管理の負担が増加してきている。



活動前の打合せ

取組内容



- 定期的実施している施設点検や機能診断の下、きめ細かな草刈や水路の泥上げ、補修など適宜実施している。



- 耕作放棄地化する恐れのある農地については、共同活動による保全管理を継続して実施している。



- 災害時の見回り等により、施設の損傷などの早期発見に努めている。



農道の砂利敷き

取組の効果

- 共同活動をきめ細かく地域ぐるみで実施しているため、カメムシ等の害虫発生防止、施設故障等の発生リスク回避及び被害拡大の抑制により、保全管理コストや労力の削減に繋げている。
- 地域住民が自ら地域の環境保全や施設管理に取り組むことで、地域全体の課題解決に向けた意識が向上した。
- 地域ぐるみで農地を保全する意識が醸成され、管理の行き届いた圃場が維持できている。



水路の草刈り



【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積1,099ha
(田1,095ha、畑4ha)
- ・資源量 水路258.4km
農道137.4km
- ・主な構成員 農業者、町内会、
生産組合等
- ・交付金 約 51百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

のみしのうち・みず・かんきょうほぜんかんりきょうてい のみし

能美市農地・水・環境保安全管理協定 (石川県能美市)

- 能美市農地・水・環境保安全管理協定は、平成29年より本交付金による取組を実施し、広域組織として活動している。
- 24町会からスタートし、ほかの町会の活動を聞き事業に参加する町会が増えたことで、現在は42町会まで参加地区が増加した。
- 本事業により、農業者だけでなく町会として事業に取り組み、農道の草刈りや水路の泥上げ活動への地域住民の参加も少しずつ増えてきている。作業員不足を解消するために、2町会合同で事業に取り組む地区も出てきた。

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化・減少、後継者不足により農地の多面的機能の発揮に支障が生じる。
- 水路、農道等の地域資源の管理に対する農家の負担の増加への懸念。
- 集落内の農業者と非農業者の関係が希薄化。



話し合いの様子

取組内容

- 年度初めに活動計画を策定し、「施設の点検」や「機能診断」を行う。
- 農業者と非農業者が一体となって、農道の草刈りや水路の泥上げ、施設の補修などを適宜実施している。



泥上げ



草刈り

取組の効果

- 少しずつ事業の参加町会が増加し、2町会合同で事業に取り組む地区も出てきた。
- ポイ捨て禁止の看板設置や施設の軽微な補修等、事業費を効果的に活用する町会の事例が市内で広まっている。
- 地域で地域資源の保安全管理に取り組むことで、活動・解決策に対する意識が向上している。



看板の設置



のうち・みず・かんきょうほぜんかんりきょうていうんえいいんかい

かほく市農地・水・環境保安全管理協定運営委員会（石川県かほく市）

- 本地域では、豊富な水資源を活用した水稲作付が主であり、一部の砂丘地や山間部において果樹や野菜の栽培が行われている。
- かほく市農地・水・環境保安全管理協定運営委員会は、かほく市宇ノ気地域農地・水・環境保安全管理協定とかほく市高松瑞穂地域農地・水・環境保安全管理協定の2つの広域組織が統合し、平成29年度より活動を開始した。
- これにより、広域組織での地区内の農道・水路の一体的な保安全管理が可能となるとともに、事務・会計を一本化することで効率化が図られている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積669ha
(田584ha、畑85ha)
- ・資源量 水路260km
農道138km
- ・主な構成員 農業者、自治会、
老人会など地元団体
- ・交付金 約42百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化、後継者不足により、農業者だけによる施設管理が困難となり、さらには、耕作放棄地発生懸念が生じた。
- また、多面的機能支払交付金の事務においても作業負担が大きく、活動のノウハウが増えていないことが課題であった。



農業用ため池の維持管理の作業風景

取組内容



- 農業者と非農業者が一体となり保安全管理活動を実施。集落の枠を超えた情報交換も行われる。
- 年に一度開催される総会にて、事業の報告のほか、活動項目の変更点等を説明。
- 新たに広域組織に加入する活動組織もあり、将来的には市全体での広域化を目指している。



総会の様子

取組の効果

- 広域組織への加入による事務負担の軽減の他、集落代表者間の情報共有により交付金が効果的に活用できている。
- 広域組織であることを生かし、集落間における交付金再分配など、活動を支援する効率的な交付金の運用を行うことができる。
- 効率的な運用及び活動のノウハウの共有により、活動参加者の意欲が高まり、地域資源の保安全管理体制の強化につながっている。



活動記録の写真



おおつぼ べっしょのうちほぜんかい

かほくぐんつばたまち

大坪・別所農地保全会

(石川県河北郡津幡町)

- 本地域は町の南部の中山間地域で、緩やかな勾配の水田で稲作が営まれている。
- 本組織は集落農業者の高齢化により、個人での水路・農道等の維持管理及び農用地の獣害対策が困難になってきたことから、それらを解消する目的で、平成28年度から大坪集落と別所集落の2集落から成る組織を設立し、事業に取り組んでいる。
- これにより、集落内の草刈り等の共同活動の回数が増え、年間を通じて農業用施設が適切に保全されるようになった。また、非農業者の参加人数も増え、特にプランターへの植栽活動には多くの住民が参加している。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積12.2ha
(田11.5ha、畑0.7ha)
- ・資源量 水路6.2km
農道2.9km
- ・主な構成員 農業者、自治会
- ・交付金 約0.6百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化等により、農業者個人を主とした農業用施設の維持管理が困難化。さらには、猪による農用地の被害も深刻となり、遊休農地面積の発生も近い将来の課題になっていた。
- 「集落内における農業者と非農業者のつながり」が希薄化。



話し合い

取組内容

- 施設の点検及び機能診断の結果、遊休農地発生防止のための保全管理や水路・農道・ため池の草刈り及び泥上げを中心に共同活動を実施している。
- 大雨後の見回りにより、農業用施設の損傷等の早期発見に努めている。
- 景観形成活動として、プランターへの植栽活動を年に1度、非農業者を中心に実施している。



プランターへの植栽

取組の効果

- 取組実施前より、水路・農道等の維持活動の頻度が増えたことにより、保全状態が良好となった。
- 事業の開始をきっかけに、農用地の電気柵の設置や、約0.3haの不作付地を解消することができた。
- 事業を通じて、農地・農業用施設の集落内での活動や、話し合いの回数が増えたことにより、2つの集落内で、農地の保全管理意識の向上に繋がった。



水路の泥上げ



ひょうがわ
ななおし
日用川グリーンクラブ (石川県七尾市)

- 本地域は、日用川流域に広がる農業地域である。日用川の豊かな水を利用して、稲作を中心とした農業が行われている。
- 遊休農地の発生防止やため池・水路・農道等の保安全管理を目的として、5集落からなる日用川グリーンクラブを立ち上げ、平成19年度より農地・水保安全管理支払事業に、平成26年からは本事業に取り組んでいる。
- ため池・水路・農道等の草刈りでは非農業者にも参加を呼び掛けており、地域ぐるみで農業用施設の保安全管理を行っている。また、この活動によって認定農業者の管理負担が軽減されていることで農地の集積にも寄与している。
- 施設の定期的な点検等により、ため池等の施設が良好に保たれているとともに、令和4年度から田んぼダムの取組を行うなど、防災・減災への意識が高まっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積135.77ha (田133.52ha、畑2.25ha)
- ・資源量 水路46.7km、農道25.2km ため池10箇所
- ・主な構成員 農業者、町内会、実年会、女性会、子ども会
- ・交付金 約 6.8百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 昭和後期のほ場整備後に農地集積が進み、非農家が増加。平成19年度には農家数がピーク時の1/3になる。
- 農村伝統行事である虫送りには、小学生までの子どもがいる家庭が空き缶松明を作り参加していたが、子どもがいる家庭が減ってきており、参加者数が減ってきた。
- 当組織の農地は、海拔が低く、これまで豪雨の際に日用川からの越水による、水害を被ってきたことから、当地域にとって水害対策は切実な問題となっていた。



水路の泥上げ

取組内容

- 非農業者にも参加を呼びかけ、地域ぐるみで水路・農道等の草刈りを行っている。
- 虫送りで使う松明は各町内会壮年団でまとめて製作することで誰でも参加しやすくしている。
- 従来実施されてきた堤防の嵩上げや河川の越水に対して、浚渫等の対策に加え、活動組織では新たに田んぼダムに取り組むこととしており、県内の先進的な取組事例となることを目指している。



堰板の設置

取組の効果

- 地域ぐるみの活動と農業者による施設点検により、用排水機場・パイプライン・ため池・水路・農道といった施設が良好に保たれるとともに、防災・減災への意識が高まっている。
- 本交付金の取組を契機に農村伝統行事である虫送りが継承できている。



農村伝統行事である虫送り



土地改良区との連携による広域化で、組織の継続

平地農業地域



キーワード

特定テーマ

組織の広域化・体制強化

ほうし こういききょうてい はくいぐんほうだつしみずちょう
宝志みどり広域協定 (石川県羽咋郡宝達志水町)

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積283.69ha (田283.69ha)
- ・資源量 水路65.1km、農道31.8km、ため池10箇所
- ・主な構成員 土地改良区、自治会、女性会、子供会等
- ・交付金 約13.6百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

- 本地域では、地域農業と農村環境を維持・向上させるため、平成19年度から「農地・水・環境保全向上対策」に取り組み、4組織の事務を事務作業面に精通している土地改良区が受託の上、資源の保安全管理を実施。
- 県・町の広域化推進により、令和2年度に土地改良区が事務受託する6組織で広域協定を締結。令和3年度に7組織、令和4年度には10組織となり、町内の活動組織の約半数が広域化に参加。
- 土地改良区が広域協定の一員として運営委員会の事務を行い、活動の支援・指導及び事業全体を調整。

連携前の状況、課題

- 組織の高齢化や、事務の煩雑さに対応できる人材の不足
- 農用地・水路・農道等の地域資源の機能低下に伴う、農業者の活動負担の増加。
- 組織の実情に応じたサポート、事業実施体制の強化。
- 事務作業の担い手確保、事務負担の軽減。
- 人材不足、負担増加等の組織の抱く不安解消に向けた、業務体制の確立。



水路・農道の草刈り



相談・指導

土地改良区の役割



事務

- ・申請(計画・変更・交付金)等書類作成
- ・運営委員会の本部的役割(活動計画・予算・委員会開催)
- ・活動記録(日報・写真帳)等の整理
- ・施設補修等の研修会開催、有用・効果的な情報の共有化
- ・組織間、行政との連絡調整

会計処理

- ・交付金管理、日当支払、金銭出納簿の作成
- ・領収証整理、等

連携による効果

- 組織内での事務負担の軽減。
- 組織活動・作業に専念できる時間と人員の確保。
- 地域課題に対する柔軟な対応。
- 地域内の環境保全に対する意識と意欲の向上。
- 組織体制の安定化に伴う、長寿化対策の積極的な取組と、その成果。
- 活動や事務作業のマンネリ化防止に伴う、組織体制の確立。
- 「経理区分の一本化」の強化と共に、交付金の使途の幅の拡大が図られた。
- 協定の一員として事務局を担い、地域に応じた指導や支援を行うことで、組織の抱く不安を解消、効率的な活動の実施に貢献している。



なかのと
グリーン・クリーン中能登 (石川県鹿島郡中能登町)

- 本地域は、二級河川長曾川流域に広がる水田地帯で、主に水稻を作付けしている。
- グリーン・クリーン中能登は、本地域における農地保管理体制の維持及び充実を図るべく、平成20年より農地・水・環境保全向上対策に取り組んでおり、中能登部下区（8町内会で形成）で実施している組織である。
- 農村環境の維持管理が粗放化し農業者による管理が困難な箇所等については地域ぐるみで共同活動を実施し、保管理に努めている。
- 本交付金の取組により、地域全体で地域資源を保全する意識が醸成され、保管理体制の強化につながっている。

【地区概要】※R4年度時点
 ・認定農用地面積44.85ha
 （田44.06ha、畑0.79ha）
 ・資源量 水路 23.1km
 農道 4.8km
 ため池 7箇所
 ・主な構成員 町内会、生産組合
 子ども会
 ・交付金 約 3.9百万円（R4）

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 生産組合や農業者等が農道・水路の草刈りや泥上げの共同作業を行ってきたが、農村維持管理が粗放化し、農業者だけでの管理が困難な状態となっていた。
- また、農家人数の減少及び農家の高齢化が進行しており、このまま放置すれば、農業の活力が低下し、農業用施設の老朽化や、農地が耕作放棄地化する恐れがあった。
- 施設の老朽化により、水路の漏水や泥の堆積が進行し、維持管理の負担が増加していた。



役員会

取組内容

- 農業用施設の適切な維持管理を行っていくため、地区の中で話し合いを行い地区内の8町内会で連携を図り各活動を実施している。
- 定期的な施設の点検や機能診断のもと、きめ細かな草刈りや水路の泥上げ、施設の補修などを適宜実施しており、災害時には見回り等により施設の損傷等の早期発見に努めている。
- 農地の維持管理に関心を持ってもらうために、水路敷の植栽活動と小学生を対象とした農業体験活動を実施している。



植栽活動

取組の効果

- 環境保全や施設管理に取り組むことで、活動参加者全体の保全活動に対する理解や地区の課題解決に向けた意識が向上したため、取組実施前より農道、水路の保全状態も良好となり、管理の行き届いた圃場を維持できている。
- 毎年定期的に役員会を開催し、情報の交換を継続するとともに、地域での集会の回数が増えたことで、地域資源の保管理体制の強化につながっている。



水路の草刈り作業・泥上げ作業



なかかんきょうほぜんかい すずし
中環境保全会 (石川県珠洲市)

- 本地域は、きれいで豊かな水を活かした米づくりを中心とした、市内でも有数の農業地帯である。
- ほ場整備を契機に地域住民で構成される農事組合法人が中心となり、地域ぐるみで施設管理を行うため、平成26年度より本交付金による取組を開始。
- 地域ぐるみで維持管理体制を構築し、共同活動において非農業者の積極的な参加に繋がっている。

- 【地区概要】※R4年度時点
- ・認定農用地面積16.0ha
(田15.5ha、畑0.5ha)
 - ・資源量 水路5.0km
農道3.0km
 - ・主な構成員 農事組合法人、
非農業者、婦人会等
 - ・交付金 約0.7百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 高齢化や後継者不足、イノシシ被害の影響で離農者が増え、担い手だけでは農業用施設の維持管理が困難な状態となっていた。
- ほ場整備が完了するも、高齢化を理由に耕作されない農地が徐々に出てくるのが危惧されていた。



ほ場整備前の耕作放棄地

取組内容



- 本地区の多面的機能の維持・管理を図るため、地域全体で共同活動を実施。



- 地元婦人会を加えての景観形成活動(花壇の整備及び植栽)を実施。



植栽等の景観形成活動

取組の効果

- 活動に対して日当を支払うことができるようになり、活動への参加者が増加したことで労力確保に繋がった。
- 地域住民が自ら地域の環境保全や施設管理に取り組むことで、地域全体で、保全活動に対する意識や、地域の課題解決に向けた意識が向上した。
- 地域ぐるみで農地を保全する意識が醸成され、管理の行き届いたほ場を維持できている。



非農業者も参加する保全活動(草刈、泥上げ)

かわきたまのちのうち・みずしげんほぜんかんりきょうてい

かわきたまのち

川北町農地・水資源保全管理協定

(石川県川北町)

- 本地域では、稲作だけでなく、露地野菜や果樹の栽培も盛んであるが、運搬の際に農道の轍がひどく、果樹等に傷つき品質の確保が困難だった。農道の簡易舗装を実施したことにより、運搬時の痛みが大幅に軽減され、品質の良い作物を出荷することができるようになった。
- 水路法面が長く、勾配が急な箇所が多く草刈が困難となっている。法面の防草工事を実施することで作業が軽減され、また、作業の安全面での心配も減らすことができた。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積811ha
(田802ha、畑9ha)
- ・資源量 水路188.3km
農道109.0km
- ・主な構成員 子供会、女性協議会、老人会、自治会、農業団体等
- ・交付金 約 37百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域では、稲作だけではなく、露地野菜や果樹の栽培も盛んであるが、果樹等の運搬の際に農道の轍がひどく、果樹等に傷がつき品質の確保が困難だった。
- また、水路法面が長く、勾配も急なことから、草刈が困難で除草剤散布をしていたが、法面の砂が落ち、砂利等が露出している状況となっており、作業中の事故につながる危険性があった。



施工前の様子

取組内容



- 轍の悪化等、運搬に支障のある箇所を中心に、農道の簡易舗装工事を実施。
- コンクリートと比べて比較的安価な素材(コンクリ殻等を使った製品)を用いて、計画的に水路法面の防草工事を実施。



施工後の様子

取組の効果

- 農道の簡易舗装により果樹等運搬の際の痛みが大幅に軽減され、品質の良い作物を出荷できるようになり、イチジクやタマネギ等が町の特産品として取り扱われるようになった。
- 水路法面の防草工事により、作業量を低減化、また、草刈等を実施する構成員は高齢なため急勾配の法面での作業がなくなり、作業中の事故の心配もなくなった。
- 活動を通じて、地域の中で農業用施設の維持管理の必要性、有効性への理解が深まった。



つばくらまちかんきょうほぜんかい
津波倉町環境保全会

こまつし
(石川県小松市)

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 24.0ha (田 24.0ha)
- ・資源量 水路 3.2km 農道 5.0km
- ・主な構成員 生産組合、町内会等
- ・交付金 約1.1百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

- 本地域は小松市の南東部に広がる緑豊かな地域である。近年、農業者の高齢化と減少に伴い、優良農地でも耕作放棄地が増えつつあり、豊かな農村景観に悪影響を及ぼしている。
- 津波倉町環境保全会では令和元年度より本事業に取り組んでおり、耕作放棄地の解消と景観向上を目的にコスモス畑作りを行っている。
- これにより、農村景観の回復が図られるだけでなく、地域住民と一体となって農地保全管理活動が行われるようになった。

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化・後継者不足等により担い手が減少し、農業者だけでは施設の維持管理が困難になっている。
- 特に、観光地である粟津温泉につながる県道沿いの農地が、長年耕作放棄地となっており、地域の景観を損ねている。



耕作放棄地解消前(2m以上の草木が繁茂)

取組内容

- 耕作放棄地の解消と景観向上を目的に5ヶ年計画でコスモスの栽培(約15,000㎡)を実施。
 - ・R元年度 約1,000㎡
 - ・R2年度 約10,000㎡
 - ・R3年度 約12,400㎡
 - ・R4年度 約14,500㎡
 - ・R5年度 約15,000㎡ 予定
- コスモス畑でイベント等を開催し、地域住民の交流を深める。



耕作放棄地解消と土壌作り



地域住民とコスモスの種散布

取組の効果

- 耕作放棄地の解消だけでなく景観の向上を図ることができ、地域住民だけでなく粟津温泉に来る観光客の癒しの空間となった。
- 農業用施設の維持管理や環境保全について住民や子供の関心が高まった。また、世代間・住民間の交流が深まり、地域住民の一体感が醸成された。
- 取り組みがメディアで紹介され、津波倉町を知ってもらうことができた。



広報看板を設置



満開に咲いたコスモス

おおば グリーンワーク大場 (石川県金沢市) かなざわし

- グリーンワーク大場は、約160年前に地元で発見された米品種「大場坊主」の栽培を復活させ、制度取組が始まった平成19年度より、地域ぐるみで栽培を行っている。
- 子ども達と共同で昔ながらの手作業による農作業体験を実施することにより、伝統農法に対する理解が深まったほか、地域の方達に現在のお米づくりの栽培方法（大型機械や直播等）による環境（農道、水路等）向上の必要性を理解いただき、制度取組前と比較して、地域の交流や活性化に繋がっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積88ha (田86ha、畑2ha)
- ・資源量 水路28.2km 農道10.1km
- ・主な構成員 自治会、営農組合、自営農業者、青壮年部等
- ・交付金 約4.2百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 当地域において、コシヒカリの先祖となる米の品種「大場坊主」が約160年前に発見され、昭和初期まで栽培されていたが、時代の流れとともに栽培が行われなくなっていった。
- 近年、農家の高齢化、後継者不足が進む一方、農作業の機械化が進み、大場町においても、子どもが農業にふれあい、体験する機会が減っていたが、制度取組を契機に地域ぐるみによる伝統的農法の保全を行うと共に、「大場坊主」の栽培が始まった。



大場坊主の看板と歴史調査

取組内容

- 「大場坊主」を地域の象徴とする郷土米として守り伝えていくため、子ども達との共同作業により、手作業による田植え、稲刈りを行っている。
- 学校教育との連携により、地元の小学校において、「大場の農業と環境保全」をテーマに出前講座を実施、また、生き物調査を通して、用水・畦畔の生態把握等を行っている。



伝統農法の伝承

取組の効果

- 子ども達を含め、田植えに49名、稲刈りに52名が参加した。(令和元年度実績)
- 農業者が激減する中、町内を流れる農業用水路は地域住民全員で江浚い(泥上げ)をする理解が深まった。
- 地域内小学校と連携し、課外授業として地域住民や農業者と一緒に生き物調査を行うことにより用水へのゴミ捨て防止や、地域活性化に繋がっている。



調査発表の様子



のうちみずかんきょうほぜんそしき

グリーン・アース農地・水・環境保全組織

かなざわし つばたまち うちなだまち
(石川県金沢市、かほく市、津幡町、内灘町)

- 河北潟に形成されている防風林帯は、19kmにも及び、風からの農作物保護だけでなく、多様な生物の生息場所としての役割を果たしている。
- しかし近年、防風林帯において、松の立ち枯れや、外来植物であるセイタカアワダチソウ、チクゴスズメノヒエの密生が見られており、生態系が乱れてきている。
- そこで、学識経験者、消費者団体、環境団体等で構成するアドバイザーグループにより作成された保全計画に沿って、外来植物調査、野鳥調査、防風林調査等が毎年行われており、生態系保全活動が実施されている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・取組面積993ha (田212ha、畑781ha)
- ・資源量 開水路42.8km、パイプライン58.4km、農道59.4km
- ・主な構成員 土地改良区、生産組合連合会、生産出荷組合等
- ・交付金 約34.2百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

農村環境の
保全・向上

外来種駆除

組織の広域化
・体制強化

活動開始前の状況や課題

- 河北潟の防風林帯は、野鳥など、野生生物の多様な生息場所となっている。しかし近年、盛夏の高温等が原因で、防風林帯のクロマツの枯死が見られた。
- また、干拓地内の農業用排水路や農地において、通水阻害や農作物の生育に影響を及ぼす外来植物(セイタカアワダチソウ、チクゴスズメノヒエ等)が発生している。



防風林帯

取組内容

- 生物多様性保全計画を策定し、生態系調査を行っている。
- 防風林帯の生物生息空間を保全するため、地域住民の参加により、クロマツの代替植生樹木の植樹を実施。
- 外来植物の駆除活動を行っている。
- 干拓地で保全が必要な生物の検討のためパンフの作成、配布、勉強会等を行っている。



植樹活動

取組の効果

- 防風林帯整備や外来種対策活動に対して、地域住民や石川県立大学、行政機関職員等含め、300人程度が参加。他団体の植樹活動等も行われていることから、地区の環境保全に対する理解が高まってきている。
- 植樹 H19～ 計 23回
植樹本数 計 2,400本
延べ参加人数 計 1,400名
- チクゴスズメノヒエ除去 H19～計 11回
延べ参加人数 計330名



地域住民を含めた生態系保全活動



すえよし くらぶ しかまち
末吉トミヨ倶楽部 (石川県志賀町)

【地区概要】※R4年度時点

- ・取組面積28.8ha
(田27.6ha、畑1.2ha)
- ・資源量 水路7km、農道3km、ため池1箇所
- ・主な構成員 農業者、非農業者、自治会、子供会、そくさい会(環境美化団体)
- ・交付金 約1.4百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

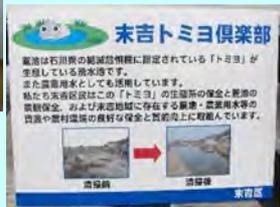
- 本地域は、志賀町の中心に位置している平地農業地域である。中心的経営体である(株)トミヨの里を中心に水稻を作付けしている。
- 平成19年度に活動組織を立ち上げ、本交付金の前身である農地・水・環境保全向上対策から活動を続けている。名前の由来はこの地区が石川県では2か所しか生息していないトミヨの生息地であることから名付けられた。
- 農業者と非農業者とが協力して活動することで、地域の中で農村環境の維持への意識が高まるとともに、トミヨ生息地の維持・普及につながっている。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、ほ場整備完了後、担い手への集積が進み、離農者が増加した。担い手だけでは施設等の維持管理などの負担が大きく困難となっていた。
- また、地域の財産であるトミヨの生息地を維持管理していくためにも人手を必要としていた。



活動報告



普及啓発看板

取組内容

- 定期的なきめ細かな除草等の農地周りの共同活動を実施している。除草剤は未使用で毎月草刈りを実施している。排水溝も月2回のメンテナンスを実施している。
- 年1回、地域の各種団体と連携してトミヨ生息地の除草や泥上げ、生き物調査を実施している。



農道の草刈り



池の清掃

取組の効果

- 共同活動を通して、担い手だけではなく地域で環境を保全していく意識が高まった。
- 子供会が生き物調査に参加することにより、これからの環境保全を担う次世代に対して、トミヨの保護をはじめとする農村環境の保全活動の普及・啓発につながっている。



トミヨ



生き物調査